



災害に備えて

～災害から身を守るために今できること～



平成28年熊本地震で倒壊した家屋など

九州地方を襲った平成28年熊本地震では、家屋の倒壊や大規模な土砂崩れなどにより、多くの方が被災し、長期間の避難生活を強いられています。「今できること」「家族でできること」などについて考え、日頃から災害への備えを心掛けましょう。また、備蓄品や避難生活に必要なものを準備しておきましょう。

地震の災害に備える

いつ発生するか分からない地震から身を守るために、日頃から災害に備えることが大切です。また、水道やガス、電気などのライフラインが停止することや、土砂崩れや橋の崩落などで道路が寸断し、孤立することもあります。食糧や飲料水などを備蓄するとともに、避難するときに持ち出すものを確認しておきましょう。

▽家具類の固定や配置 家具類の転倒や落下により、多くの方が負傷しています。家具や

テレビ等は、L字金具などの転倒防止器具で固定しましょう。本棚は重い本を下段に入れ、食器棚の食器の下には滑り防止の布を敷き、ガラスには飛散防止フィルムを貼るなど工夫しましょう。

また、倒れた家具で出入り口がふさがれ、逃げ遅れるケースもあります。家具の配置にも気を付けましょう。

▽家族で話し合い 災害時には、通信回線の混雑や通信施設の被災により、連絡が取りにくくなります。連絡手段や避難場所の確認など、家族で話し合っておきましょう。

▽地域の防災活動に参加 地域の防災訓練に参加して、災害時の行動・活動について体験しておきましょう。災害時には、救助を求めてもすぐに救助隊が来るとは限りません。頼りになるのは、近隣の住人との助け合いです。日頃からコミュニケーションをとっておきましょう。

▽「東京防災」の活用 「東京防災」は、首都直下型地震を想定して東京都が作成し、全戸配布した防災に関する黄色い小冊子です。地震以外の災害にも対応していますので、事前に内容を確認し、いざという時の参考にしましょう。

▽備蓄品（一例） 災害復旧まで自活するためのものを最低3日分は用意しましょう。

●食糧：缶詰、レトルト食品、栄養補助食品（チョコレート、梅干、チーズなど）

●水：飲料水（大人1人当たり1日3リットルが目安）、生活用水（風呂の栓は抜かず、洗濯やトイレの洗浄などに利用）

●燃料：カセットコンロ、予備のガス、固形燃料
その他：懐中電灯、携帯ラジオ、予備の電池、洗面用具、

避難するときに持ち出すもの

貴重品	現金、通帳類、証書類、身分証明書、健康保険証、免許証、印鑑
携帯ラジオ	予備の電池（多めに用意）
懐中電灯	※懐中電灯は1人につき準備できるとよい。
救急薬品	ばんそうこう、ガーゼ、包帯、消毒薬、解熱剤、胃腸薬、風邪薬、鎮痛剤、常備薬、とげ抜き
非常食など	カンパン、缶詰・缶切り、ビスケット、飲料水、水筒、紙皿、コップ、ナイフ
その他	下着、上着、靴下、ハンカチ、タオル、ティッシュペーパー、ビニールシート、マスク、笛、携帯電話・予備バッテリー

※一般的なものを示しています。ご家庭の状況に応じて必要なものを準備しましょう。

携帯トイレ、生理用品、ビニール袋、キッチン用ラップ、新聞紙

大雨や台風などによる土砂災害や水害に備える

▽地域の危険箇所の把握 市内には778か所の土砂災害の警戒区域があり、ハザードマップで確認することが出来ます。皆さんが住んでいる地区の危険箇所を事前に把握しておきましょう。



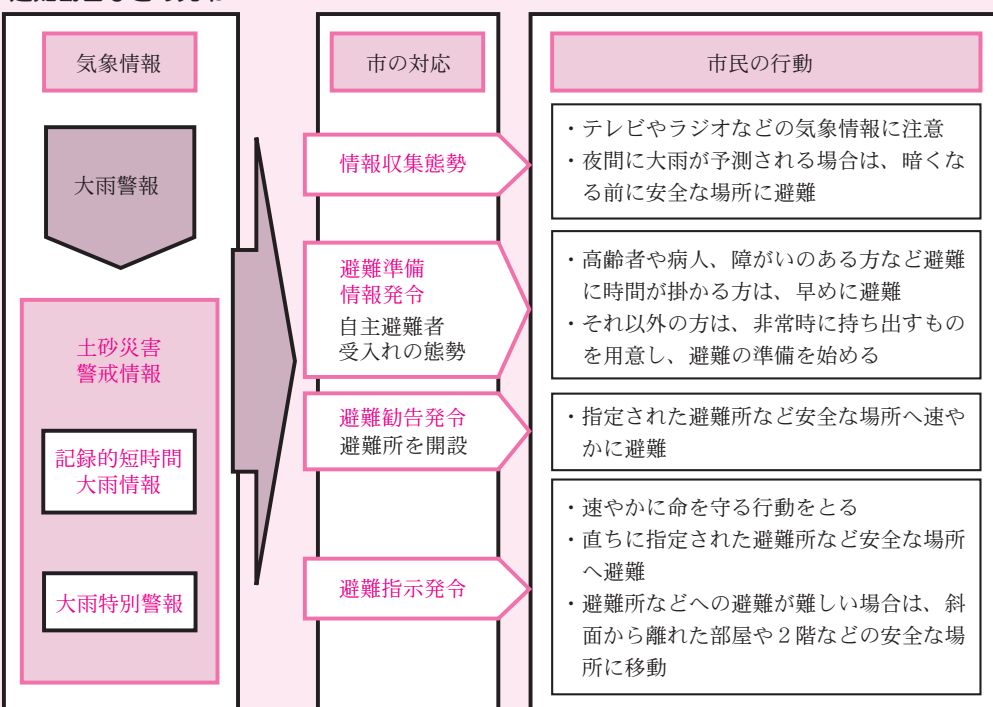
大雨による市内の土砂災害

※ハザードマップは3月に全戸配布し、市ホームページでも公開しています。

▽事故防止のために 台風や大雨の際は、外出や畑等の見回りを控え、屋根などの高所には上がらない、河川や水路など危険な場所には近づかないようにしましょう。

問合せ 地域防災課防災安全係

避難勧告などの発令



6月の市税の納期

○市・都民税 第1期
○国民健康保険税 過年3期